

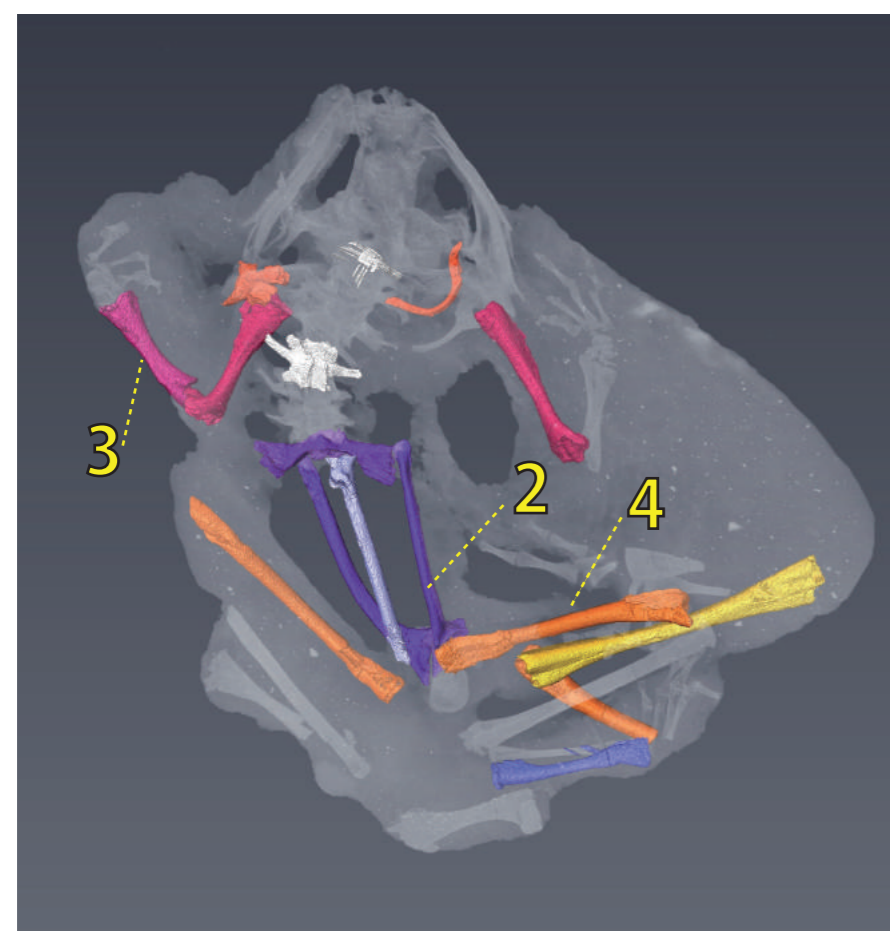
兵庫県の下部白亜系篠山層群より産出したカエル類化石の分類学的研究

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ 池田 忠広

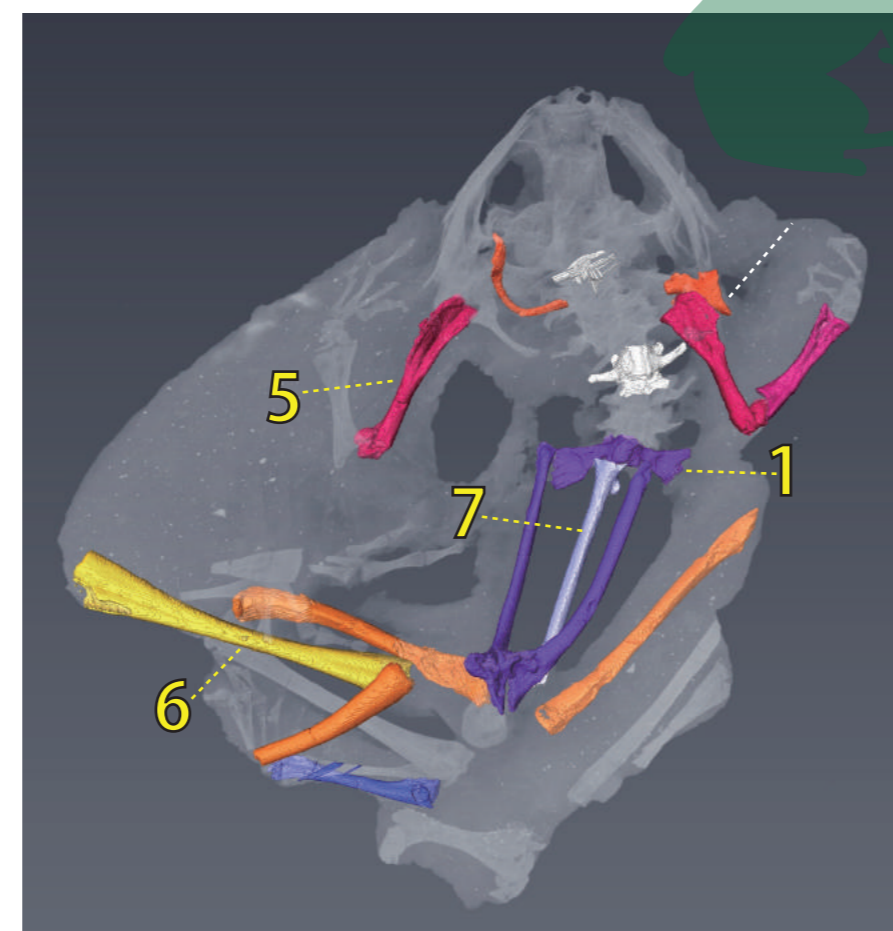


私は国内外のあらゆる時代の地層から産出する小型爬虫両生類化石、簡単にいうとカエル・トカゲ・ヘビ化石の分類学的研究（どのような種類なのか調べること）を行っています。最近では、兵庫県の丹波市・丹波篠山市に広く分布する下部白亜系篠山層群大山下層（約1億1千万年前）より産出しているカエル類化石を研究しています。

無数の遊離骨（バラバラな骨）に加え、全身の骨格要素を保持した化石も発見されており、2016年にはそれぞれ新属・新種のカエル、***Hyogobatrachus wadai***（ヒョウゴバトラクス・ワダイ）、***Tambabatrachus kawazu***（タンババトラクス・カワズ）として記載報告されています。さらに最近では、これらを対象に高解像度のCT画像を撮影し、個々の骨が示す細かな特徴を明らかにしています。今後これらの成果を用い、無数に産出している遊離骨を対象に、それらがどのようなカエル類なのか検討し、篠山層群のカエル類の種多様性を明らかにしたいと考えています。



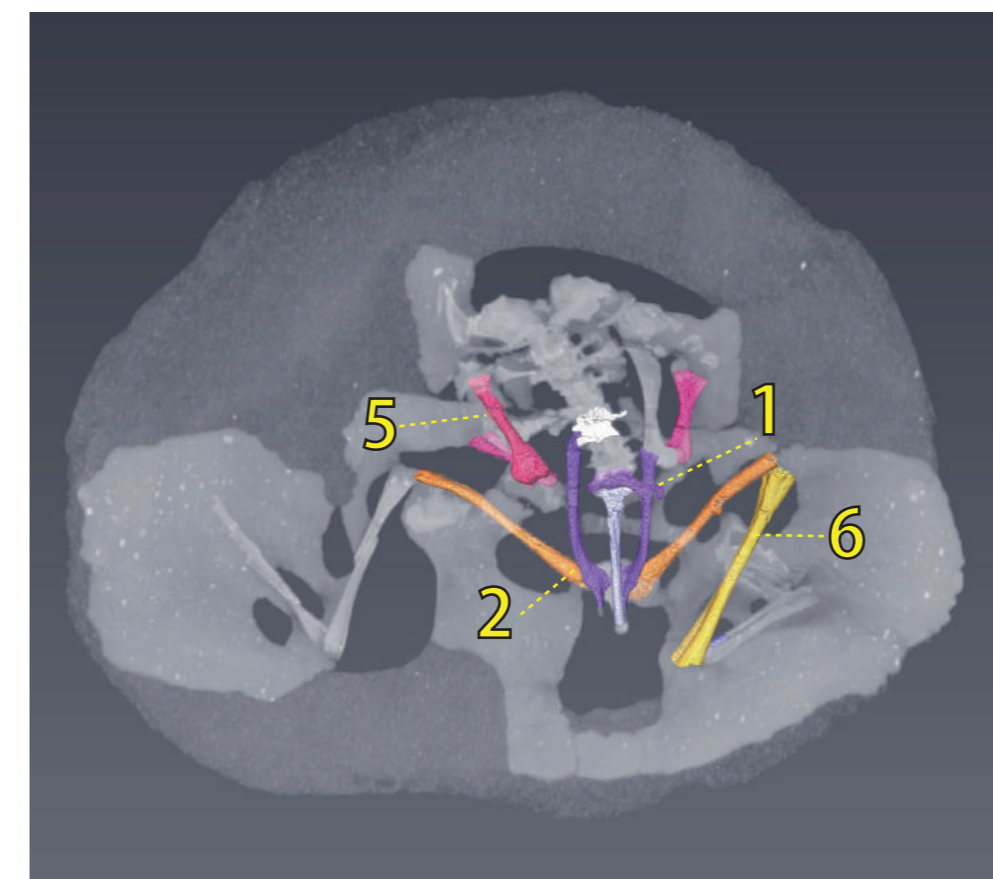
背面観



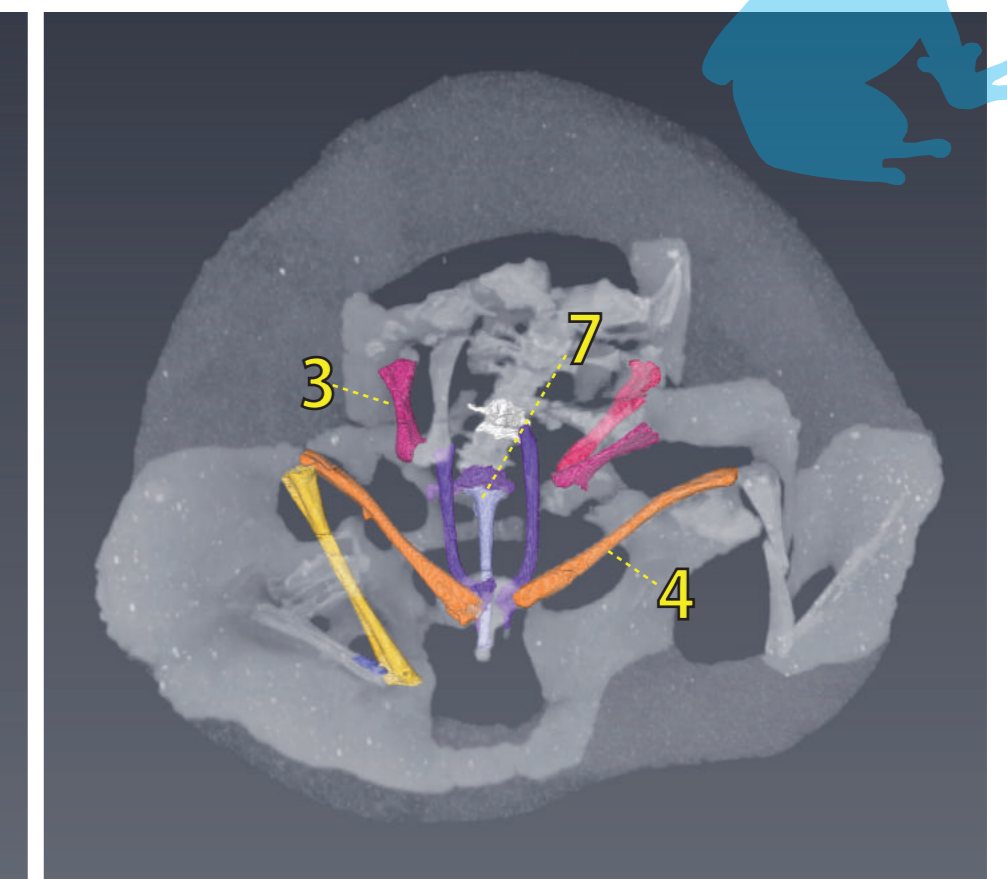
腹面観

Hyogobatrachus wadai

1:仙椎, 2:腸骨, 3:橈尺骨, 4:大腿骨,
5:上腕骨, 6:脛腓骨, 7:尾骨



背面観



腹面観

Tambabatrachus kawazu